

# 「室蘭港長期構想（素案）」への パブリックコメントの実施結果について

## 1. 実施概要

### (1) 募集期間

令和2年10月1日（木）～令和2年11月2日（月）

### (2) 公表場所

- ①市ホームページ及び広報紙への掲載
- ②市内公共施設への設置（8箇所）
  - ・港湾部庁舎（1階ポर्टロビーいりえ）
  - ・室蘭市役所本庁舎（1階子育て支援課入口）
  - ・むろらん広域センタービル（1階戸籍住民課）
  - ・市民会館
  - ・蘭東支所（「えきがるセンター」東室蘭駅自由通路東口）
  - ・生涯学習センター「きらん」
  - ・サンライフ室蘭
  - ・図書館白鳥台分室（白鳥台ショッピングセンターハック内）

### (3) 提出方法

公表場所に設置している意見箱への投函及び港湾政策課への持参・郵送・ファックス・電子メールによる提出のほか、市ホームページからの電子申請

## 2. 提出意見数

15件（6人）

## 3. 意見等の概要と室蘭市の考え方

次ページのとおり

### 「分類」欄の番号の説明

①：今回の構想及び取組の方向性として、意見等の趣旨を反映させていただいたもの	0件
②：意見等の趣旨が構想及び取組の方向性として、既に予定されていたもの	7件
③：今後、施策事業を検討・実施する際に参考とさせていただくもの	6件
④：意見等の趣旨を構想及び取組に反映できなかったもの、またその他の意見等	2件

意見等の概要と室蘭市の考え方

提出者	No.	意見等の概要	分類	室蘭市の考え
A	1	<p>世界最大クルーズ船受け入れ拠点の形成の取組として、絵鞆地区にあるアイヌ慰霊碑を改修し、シャトルバスを走らせることで、民族の共生を訴求できると思います。</p> <p>また、設置されている野外トイレについては、使用時は中が見えず、未使用時は中が見えるガラス張りのトイレを整備することで清潔度が保たれます。慰霊碑とガラス張りのトイレが口コミで広がることで観光客の増が見込まれると思うので、検討して下さい。</p>	②	<p>本構想（素案）のP66「(2) 自然、歴史、工業等の地域資源を活かした寄港地観光メニューの創出」にて、寄港地観光の拡充を取組内容としておりますので、頂いたご意見を今後の取組推進のための参考にさせていただきます。</p>
B	2	<p>祝津でもフェリーの発着ができないか。</p>	③	<p>本構想（素案）のP62「(1) フェリーの再興とRORO船航路の誘致」にて、入江地区におけるフェリー航路の維持と新規航路の誘致を取組内容としており、フェリー機能は入江地区として位置付けてしております。フェリーの発着には専用の乗降設備等が必要となることから、増便など現施設での運営が手狭となる場合には、頂いたご意見を今後の取組推進のための参考にさせていただきます。</p>
B	3	<p>祝津で整備を予定している施設は津波避難ビル化して複数階構造とし、フェリーターミナル機能、クルーズ船にも対応可能な機能、海事教育施設などをあわせた複合施設にできないか。</p>	②	<p>本構想（素案）のP67「(3) 白鳥大橋周辺エリアの新たな観光資源の創出」にて、複合施設の誘致を取組内容としておりますので、頂いたご意見を今後の取組推進のための参考にさせていただきます。</p>

B	4	クルーズ船は祝津と入江に接岸させ、崎守は貨物船専用の埠頭にできないか。	②	本構想（素案）のP65「(1) 北海道唯一の世界最大クルーズ船受入拠点の形成」にて、ご意見頂いた方向性で記載しております。
B	5	岸壁埋め立てで確保した用地に災害対応物資（非常用発電機・非常食）を保管する防災倉庫を整備できないか。	③	災害対応物資につきましては、避難所等への保管が室蘭市備蓄整備方針に定められております。また、岸壁背後にある倉庫ではオイルフェンスなどの災害対応物資について既に保管を行っておりますが、本構想（素案）のP75「静穏性を活かした避難船や物資受入補給拠点としての対応」にて、頂いたご意見を今後の取組推進のための参考にさせていただきます。
B	6	既存施設だけでは不十分なので、RORO船専用岸壁を築地のほか、崎守や仲町など、複数の岸壁に整備できないか？	③	本構想（素案）P62「(1) フェリーの再興とRORO船航路の誘致」にて、既存施設を活かしたRORO船の航路誘致と既存施設を活かしたRORO船受入を取組内容としており、現状においてRORO船航路の就航がされていないことから、まず、既存施設を活用したRORO船の就航を目指します。将来的にRORO船の便数が増加した場合は複数のRORO船対応岸壁の位置づけを検討する可能性がありますことから、頂いたご意見を今後の取組推進のための参考にさせていただきます。
C	7	このようなものにお金をかけないで欲しい	④	室蘭港を取り巻く情勢や時代の変化に伴い現状に即さなくなった大きな開発計画などを見直すためには、港湾法に定められた港湾計画の見直しが必要となり、そのためには、市の関連計画や市民、経済界の意見を反映させ、今後20～30年の長期を見通した港湾の開発、利用及び保全の方向性を明らかにする必要があります。施策の実施にあたっては、費用対効果を重視し、効率的な実施に努めて参

				ります。
D	8	新道仲町ランプー御崎ー日鋼構内ーフェリーターミナルに通じる道路を整備されてはどうか。白鳥大橋祝津ランプー港南町ーから仲町まで1本の臨港道路で結ばれると利便性が上がるのではないか。	③	当該道路整備により経由地に存在する企業の操業にも影響が考えられることから、将来、港湾関連交通量が増えた場合には、頂いたご意見を今後の取組推進のための参考にさせていただきます。また、本構想（素案）P60「(1)ものづくり産業の競争力強化につながる物流機能向上」にて、地域産業の利便性向上のために、御崎地区に公共岸壁の位置づけを取組内容としております。
D	9	室蘭通船から中央埠頭に通じる遊歩道の整備をすると旧札幌通りと接続し散策コースの魅力向上に繋がる。	③	遊歩道については、再設定されたみなとまち散策路の経路に含まれておりますが、みなとまちを身近に感じられる魅力向上のため、本構想（素案）P68「(1)港とまちなかの連携」にて、今後の取組推進のための参考とさせていただきます。
D	10	海事関連資料をフェリーターミナル3階に集約してはどうか。ミュージアムショップやカフェも併設されるとなおよいのでは。	②	本構想（素案）P69「(2)みなとを活かしたふれあいづくり」にて、海事関連資料の充実を取組内容としており、頂いたご意見を今後の取組推進のための参考にさせていただきます。
D	11	・フェリーターミナル～入江臨海公園～中央ふ頭の周遊ルートの構築に賛成であり、臨海公園の整備については枝木の剪定、花壇の整備、ベンチ、トイレの改修、遊具スペースのアスファルト舗装の改良、夜間照明の充実など、明るく市民と観光客が憩う公園に再整備して欲しい。レインボー公園にあるスケボーのコースや以前中央ふ頭の先端にあったバスケットコートを整備して、若者の憩いの場を作ってもよいのではないか。	②	本構想（素案）P68「(1)港とまちなかの連携」にて、港とまちなかの回遊性向上や普段から市民や観光客が訪れるような港湾施設の機能向上を取組内容としており、直ぐに取りかけられる枝木の剪定などは早急に行い、その他、施設整備に関わる内容につきましては、頂いたご意見を今後の取組推進のための参考にさせていただきます。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入江臨海公園と中央ふ頭の間の空間をイベント広場にして、野外ステージを設けてはどうか。</li> <li>・入江運動公園にある灯台を臨海公園または中央ふ頭に移し、展望塔やランドマークとして活用できないか中央ふ頭付近のフォークリフトの練習場を移転し、駐車場を一体整備できないか。</li> <li>・観光ONシーズンにフェリーターミナル～旧室蘭駅舎～室蘭駅～中央町～測量山を周遊する観光路線バスを運行してはどうか。</li> </ul>	
D	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祝津客船バースからマリーナまで海辺を周遊できるコースを設ける。</li> <li>・室蘭水族館をみたら裏側に移転してはどうか。親水護岸の一部を活かしタッチプールやショーのプールを整備し道の駅みたら建物と水族館の建物を併設してさらなるにぎわいに繋げてはどうか。</li> </ul>	② 本構想(素案)のP67「白鳥大橋周辺エリアの新たな観光資源の創出」にて、既存施設との一体的な開発による一大レクリエーションゾーンの実現を取組内容としており、頂いたご意見を今後の取組推進のための参考にさせていただきます。
D	13	大黒島の有効活用を本格的に検討してはどうか。旧室蘭灯台は室蘭港の盛衰を見てきた歴史的にも価値ある建造物と考える。灯台を修繕、保存活用し、島側の栈橋や歩道を整備し、かつて水族館から行き来ができたように安価な運賃で航路を設ければ一大人気スポットになると思う。	③ 本構想(素案)のP81～82「室蘭港の利用計画」、「地区別の空間利用計画」において、大黒島の活用については室蘭港に残された数少ない自然環境であることを鑑み、室蘭港のシンボルとして眺望を楽しむ景観としての保全利用すべきゾーンとしております。 頂いたご意見は今後の取組推進のための参考にさせていただきます。
E	14	室蘭港は鯨の町と言われる様に、この程、捕鯨基地にもなり、近くで取れたクジラは釧路とか青森に運ばないで、室蘭に処理施設を	② 本構想(素案)のP64「(1) 多彩な水産物を活かした水産業・食産業の振興」にて、水産観光業への取組やSea級グルメ等の充実を取組内容としております

		造って解体ショーや肉の販売等を行い観光客が喜ぶ姿を見られるようにすれば、良い効果があると思います。		ので、頂いたご意見を今後の取組推進のための参考にさせていただきます。
F	15	<p>1) 概要を読みますと天然の良港が前提となっているのですが、この良港（具体的には水深や水域等の人為的な開発の余地が困難な環境部分）は何らかの地球環境の変化や気候変動によって、過去40-50年あまりで変化していることはないのでしょうか？またそのような検討はされたのでしょうか？</p> <p>2) このような天然の良港が生まれた地学的な歴史・背景についてご教授ください。概要の記載に多少盛り込んでいただいてもよろしいかと個人的には思います。</p> <p>3) それを踏まえて、室蘭の現在の良港状況を維持するための行なっている自然保全的な取り組み、がありましたら教えてください。公的な取り組み、私的な取り組み問いません。</p> <p>以上、よろしくお願い致します。</p>	④	<p>1) 航路については大きな河川からの土砂の流入もなく、船舶の航行に影響あるような水深が浅くなったりなど変化はしていない状況です。</p> <p>2) 絵鞆半島の断崖絶壁は、室蘭港を囲う形となってることがわかります。船の敵は、強風と高波であり、断崖絶壁に三方向をガードされていることが、室蘭が天然の良港と呼ばれる所以です。</p> <p>一説には、点在した海中火山（が地上に出たもの）を太平洋と噴火湾の海流により砂が結び着けたことが絵鞆半島が生まれた背景と言われています</p> <p>3) 室蘭港が天然の良港と言われている大きな要素である、静穏な港内環境の維持と合わせ、津波等による被災抑制のため、国の事業により既設防波堤を粘り強い構造にするための改良を進めております。</p>